



龍谷院  
たより

発行所 龍谷院  
茨城県東茨城郡  
城里町下河野1309  
TEL. 029-289-3108  
FAX 029-289-3025  
編集人 園部 義光

## 謹賀新年



新年のごあいさつ

住職 園部 義光

新春のお喜びを申し上げます。お檀家の皆様には穏やかな新年を迎えられているとご察し申し上げます。

今年はいよいよ十月二十三日より行われます大行事、晋山式の年であります。丑年にあたりますので牛の如く一歩一歩準備を進めて参る所存であります。

お檀家の皆様には大変ご迷惑をおかけいたします。

住職になる式とは申せ何かと出費の多い時にまた不況の最中「何ゆえ」とおっしゃられるでしょう。昔から大なり小なり観音殿では晋山式をやつてまいりました。大変大切な儀式であります。先代住職栄

重和尚の晋山式は昭和二十四年に晋山式を行っております。

事業として、茅葺屋根をセメント瓦に葺き替えました。何か事業をすること、その資格を認めて貰うのが通例となっています。このようにお檀家からご寄付いただくのも私の住職代にはもう無いかと思えます。どうかご理解ご協力をお願い申し上げます。

又、この度の龍谷院たより第二十一号に於て編集をしていただきました委員の杉山三千雄様、稲川清様に大変ご尽力をいただき感謝申し上げます。

平成二十一年の念頭に当たり皆様のご多幸とご健勝をご祈念申し上げます。



## 新年のご挨拶

総代 桐原 務

新年明けましておめでとうございます。檀信徒の皆様には、希望に満ちた新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

また、日頃は、龍谷院の維持運営につきまして、多大のご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、本年は、龍谷院開創五百五十周年に当たります。さらに本院四十四世羅月義光和尚の晋山式、そして位牌堂の建設という記念すべき年であります。この慶事達成のため、檀信徒の皆様のご理解とご賛同をいただき、現在着々と準備が進められております。



景気悪化の折ですが、私たちの菩提寺である龍谷院のますますの発展のため、皆様の格別のご厚情、ご協力を心からお願い申し上げます。

檀信徒ご一同様のますますのご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

## ■ ■ ■ ご詠歌と大正琴の集い ■ ■ ■

昨年十一月六日に那珂市

一乘院にてご詠歌と大正琴の集いが開催され、花の寺八ヶ寺の住職の法話とご詠歌が行われた。花の寺は八ヶ寺のうち五ヶ寺が真言宗と三ヶ寺が禅宗であります。

其々の宗派のご詠歌が唱えられ、龍谷院の梅花流を評を得ました。

梅花流は非常に現代のご詠歌で、明るく若い人にも受ける曲で印象に残ったよ

うです。

最後に龍谷院の大正琴を披露し、盛大な拍手をいただき、会を盛り上げることができました。



## 大本山永平寺三世漱通義介大和尚の 七百回大速忌参拝旅行



昨年十月二十三日より二十六日まで大本山永平寺参拝旅行を行いました。二十三名の参加者

様にはご苦労様でした。初日は

雨の天気でしたが二日目から天気に恵まれ、楽しい旅を満喫された。世界遺産の白川郷で散策し、どぶろくに酔いながら、下

### 永平寺参籠

龍谷院主催の永平寺参拝旅行は、十月二十四日、雨降る中一行二十三名、午前六時頃勢ぞろいし、バスで一路永平寺へと向いました。午後四時過ぎ、永平寺に着き、いよいよ参籠(本山にお籠りして修行すること)に入りました。大講堂で記念撮影の後、○三進退(三つの作法)○三黙道場(1東司、2浴室3三僧堂)の話を受けました。応供台での菓石(夕食、食前には、五観の偈(真事を受ける時、反省と感謝等)を唱えます。午後六時四十分より、大講堂で、坐禅・老師の法話、映画の上映と続きました。午後九時、間枕(消灯)各自床につきました。

呂温泉ではゆっくりと寛ぎました。そして参加された方の玉稱をご紹介します。

### 福川 清

翌日、午前二時三十分挨拶(起床)布団作務、洗面、そして朝の修行に入りました。先ず、光明藏での晚天中光祥、続いて法堂での朝の法要、そして参加者の先祖供養がありました。後、永平寺内の堂塔を巡り、それぞれの説明を受けました。朝食をとり参籠が終了しました。当日の参籠者百数十名が熱心に修行に励まれていたことに感心させられました。又永平寺の御藍の多さと雄大さ、修行僧の多いことに深い感銘を受けました。二日目は天候に恵まれ、白川郷を見物した後、下呂温泉に宿泊して、体を休めました。三日目、全員無事帰宅しました。

## 永平三世徹通禪師七百回御遠忌と 白川郷・飛騨高山の旅に参加して

### 心あたたかく

青柳 貞子

大本山永平寺参拝の旅へ、十月二十四日朝早く秋雨の中を出発しました。永平寺に夕暮れて到着、記念撮影をして即部屋へ。参加者は男性十七名女性六名で私達は慈雲の間です。お風呂を十五分で済ますように言われ止めました。まもなく坐禅と法話の大講堂へ移動。参拝者が多勢居て、龍谷院はみどりのリボンを胸に男女別々に二列に並び、又手をして静かに左側通行で修行僧に案内され、坐蒲を両手で持ち入堂すると、一番前の禪師さまの真前の席になりました。足を結跏趺坐に組み手は法界定印に結び、背筋をまっすぐに伸ばして頭のとっぺんで天井をつきあげるようにと言われた通りにすると、自然に肩の力が抜

けて心が温かくなりました。山田公照禪師様の法話は、いまま何しているー息しているーしを取つたらー生きているーしは死一人には、首・手首・足首と生まれた時から苦がついている。極楽にも苦が一つもある。人は生老病死の四苦から逃れることはできないのだから、いまこゝを大切に、日々是好日、毎日を佳い日にするようにとの御教でした。楽しみの食事は、着席・食器の持ち方・いただき方などの指示があり、五観の偈(大切な食事に関する五つの考え方とお釈迦さまの徳をたたえてその教えをかみしめる詩)を唱えていただきます。料理番の雲水さんが魂を込めて作られる料理は正に健康食で味も良いのですが、時

間が制限されてゆっくり感謝していただけず心残りでした。入浴は出来ず、洗面所で清拭をして九時の消灯。

二十五日は午前三時起床、法堂で修行僧と朝課・参拝・供養をして頂き、仏殿・庫院・山門など巡る時は、風が冷たかったけど、心は温かく、二歩あるけば一歩の佛の心境になりました。永平寺ただそれのみで温かく

心温まきてやすつき満つる

永平寺の境内は全然見られず、世界文化遺産の白川郷へと向いました。農村の結いの心が息づく合掌造りの薬屋はとてももつかしい風景でした。飛騨高山・まつりの森は、山の斜面を瀬削して造った日本発の地中ドームで、世界一の大太鼓や豪華な屋台からくりが上演されて目を見張るばかりでした。美しい紅葉を見ながら明るいうちに下呂温泉・水明館

へ到着。天皇陛下も宿泊なされたという新館で、昨夜の分まで入浴し、広い宴会場で初めて参加者全員のお顔を拝見し、ご馳走を堪能しました。

二十六日は長野の光前寺で、靈天伝説の早太郎(疾風太郎)の墓に詣で美味しい光前寺そばを戴きました。ガイドさんが中央道からは初めてという傘雲を被る富士山も見られました。真にありがたい二泊三日でした。

先生・先生のお兄様・梅花講の先輩・ご同行の皆様は心より感謝致します。永平寺より頂いた記念の額の一喜心・老心・大心の三心に学び心温かく過ごすと思います。

(合掌)



## 龍谷院の沿革①

## 龍谷院の縁起

龍谷院は瑞雲寺と号し、大山城主大山義成の開基で、開創は長祿三年（一四五九）八月十四日、開山は大正伝禪師秀峰宗倍大和尚です。御本尊の釈迦牟尼仏は、鎌倉の仏師法眼秀林の作で、明応八年（一四九九）八月十六日の完成といわれています。御本山は福井県の水平寺、横浜市鶴見区の総持寺です。

本堂はかつて、山の中腹にありましたが、いつの時代か野火で焼失し、現在の場所に建てられました。

江戸時代には、三代将軍徳川家光から御朱印地として十石、水戸藩からは十石四升を与えられました。この時代、末寺三十二ヶ寺を有し、檀家は百七十軒ありました。

境内には、別に観音堂があり、

千手千眼観世音菩薩が安置されています。

近年に至り、堂宇の老朽化が進み、幾度か改修が行なわれてきました。すなわち、昭和三十三年の車裏の修復、同五十五年の本堂新築、平成十五年の客殿新築、同十七年の観音堂新築など、院と檀信徒が一体となって、寺運を護持し、今日に至っています。

寺宝として、開山禪師着用金襴九条七条袈裟二領、開山禪師が大本山より本院に赴いたときの緋綱代籠、竜骨、観世音霊竹があります。（杉山記）

（龍谷院開基の詳細については、「龍谷院たより」平成十六年七月一日号に掲載されています。）



## 生命科学

## 第一話「今も生きている御先祖様」

正林サイコソマテック研究会 園部 肇元

今号から「生命科学」と題して、数回の連載をさせていただくとになりまし。

二十世紀には、いろいろな分野で「科学」が、めざましい発展をとげました。医学や生命科学もその一つです。今ではゲノムとかDNAという言葉が身近に使われるようになりました。

さて皆さん、話しはちよつと飛びますが、江戸時代の将軍家頼朝が指南役、柳生宗矩という人の名を聞いたことがあると思います。柳生の庄に生まれ、父石舟斎から柳生新陰流を学び、後に将軍家に仕えました。徳川幕政の基礎固めをした人の一人と伝えられています。たしか昭和四十六年頃だったでしょうか、宗矩の一生をドラマ化した「春の坂道」という

NHK大河ドラマがありました。

宗矩には、三蔵十兵衛、友成、宗冬、義仙の四人の男子がおりました。母親が亡くなった時、まだ小さかった子供たちは、涙を流して悲しんでいましたが、宗矩はその子供たちに言うのです「いつまでもそう悲しむな、お前達の体には母が血となって生きているのではないかと。ドラマの一幕ですが、そうなのです。私達の体には父母、曾父母そしてはるか御先祖様の命が脈々と流れ生き続けているのです。今風に言えば「DNA」遺伝情報」が御先祖様から代々子に受け継がれ、今に生きているのです。御先祖様を大切にすること、ということ、とりも直さず自分を大切にすることになるのです。

（続く）

## 晋山式 稚児行列参加者募集

期日 平成21年10月24日(土)

参加費用 概算 (7,000円前後予定)

※後日お知らせ致します。

参加者対象 2才～10才位までの男女児

定員 50名 (定員になり次第〆切ます。)

〆切は8月末日頃

晋山式の行列です。

この機会には是非  
ご参加下さい。

檀信徒以外の方  
大歓迎です。

### 『編集後記』

昨年は何かと暗いできごとが続きましたが、今年はそのらを払拭し、明るく活気のある希望に満ちた年にしたいと、だれもが願っていることと存じます。

さて、龍谷院たより第二十一号をお届けいたします。今回は、大本山永平寺参拝旅行に参加された方々の紀行文を特集しました。厳肅な参籠のようすがひしひしと伝わり、またとない経験をされたことに感動しました。ご寄稿ありがとうございます。

今回、紙面を大判にし、文字も大きくして読み易いようにしました。また、今回から数回にわたり、「龍谷院の沿革」と「生命の化学」の二つについてシリーズでお伝えすることになりました。今後も皆様のご協力をいただき、親しみやすい寺報を作っていきたいと思っております。なお、左記の二人が暫くの間、編集委員をとめることになりましたので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

編集委員

稲川 清

杉山三千雄



### 節分会

平成21年2月3日

お申込は各地区の世話人へ、  
お願いします。 千手観音 龍谷院

平成21年の  
年表

	年表	前年	本年	後年
男	25歳 42歳	昭和41年生 昭和44年生	昭和50年生 昭和54年生	昭和59年生 昭和62年生
女	19歳 33歳 37歳	平成4年生 昭和53年生 昭和49年生	平成3年生 昭和52年生 昭和48年生	平成2年生 昭和51年生 昭和47年生

### 第3回 龍谷院ゴルフ大会

— 参加者募集中 —

開催予定

平成21年

5月11日(月)

城星ゴルフクラブ

参加費

3,000円

※プレー費は個人負担 締切日 4月末日

